

市町村名	中城村
------	-----

平成26年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	9-①	(仮称)護佐丸歴史資料図書館の整備事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ウ
担当部署名	教育委員会 生涯学習課	事業実施(予定)年度 平成24~27年度	沖縄振興基本方針該当箇所	文化活動を支える基盤の形成
				Ⅲ-3-(2)

事業内容 沖縄や中城村の歴史、文化、世界遺産等について村民等が学ぶ場所として、また、村内外に広く知らしめる情報発信拠点として、歴史資料図書館の建設を行う。当該施設は、災害時の安全を確保するため防災タワーも兼ねた複合施設として整備する。

実施方法  直接実施  委託  補助  負担  その他 ( )

		24年度	25年度	26年度	26年度(繰越)	27年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a) 当初予算額	116,227	—	762,340		
	(b) 予算現額	116,741	—	760,110		
	(c) 増減額 (b-a)	514	—	▲ 2,230	0	
	(d) 繰越額	—	105,042	—	294,116	
	A. 計 (b+d)	116,741	105,042	760,110	294,116	
	B. 執行済額	10,472	105,034	465,994	268,007	
	うち交付金充当額	8,377	84,027	372,795	214,405	
	次年度繰越額	105,042	0	294,116	0	
	執行率 (%) (B/A)	9.0%	100.0%	61.3%	91.1%	
予算の状況の説明	機械設備工事の設計に変更が生じたため、平成26年度内での完了が困難になった。平成26年度繰り越し分に関しては、平成27年度に無事完了することができた。					

活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)	達成状況			
		24年度	25年度	26年度	27年度
・(仮称)護佐丸歴史資料図書館の建設工事の実施	目標	(基本構想・基本設計の作成、建設用地の購入)	(実施設計の実施)	(磁気探査調査、施工監理、杭打工事、建築工事、機械設備工事、電気設備工事の実施)	( )
	実績	基本構想・基本設計の作成、建設用地の購入	実施設計の実施	磁気探査調査、施工監理、杭打工事、建築工事、機械設備工事、電気設備工事の実施	
	目標	( )	( )	( )	( )
	実績				
達成状況説明	平成26年度に磁気探査調査、杭打ち工事を実施し、平成27年度に繰越して施工監理業務、建築工事、機械設備工事、電気設備工事を実施した。				

成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)	基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)	
		目標	( )	(工事進捗率:60~65%の実施)	( )	( )	( )
		実績		工事進捗率:64.4%で実施			
		目標	( )	( )	( )	( )	( )
実績							

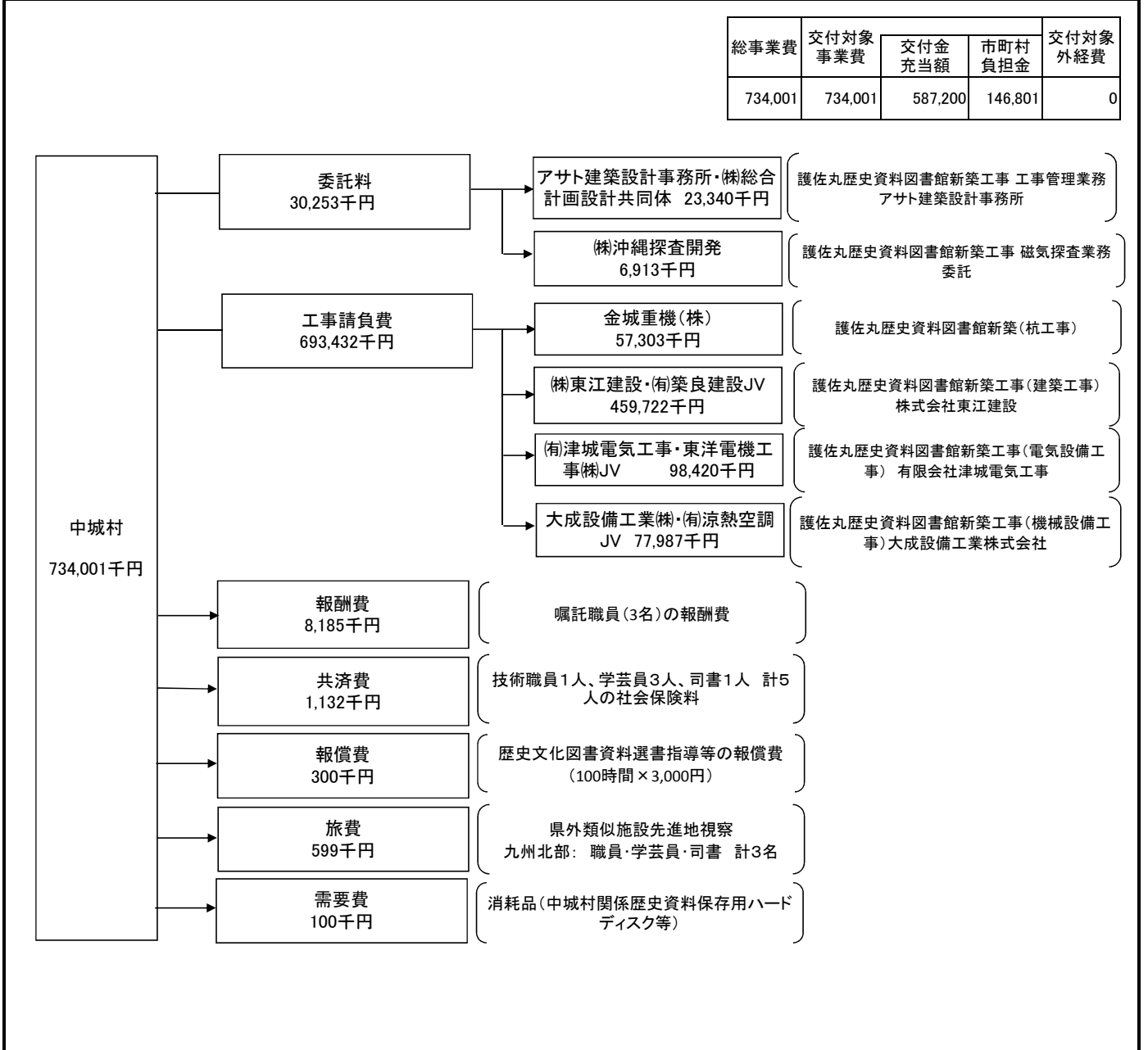
進捗状況説明 平成26年度に磁気探査調査、杭打ち工事のすべてと、繰越した分を平成27年度で施工監理業務65%、建築工事64.5%、機械設備工事64.1%、電気設備工事64.5%を実施した。

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	中城村には郷土の歴史、文化を学ぶ場がなく、これらを学ぶことができ村内外に広く情報を発信していく拠点とし、地域の防災タワーとしての機能も有する施設として整備を行う。	設計変更により工事の遅れが出てしまったが、今後はこのようなことがないように今以上に綿密な設計の検討を行う必要がある。工程についても不測の事態が生じることを考慮に入れ十分な期間を設けねばならない。
	平成26年度は、機械設備工事の設計に変更が生じたことで、工事が遅れてしまったため繰越が生じてしまった。	

**今後の取り組み方針**

定期的を実施している工程会議の中で、施工監理業者や工事業者とこれまで以上に綿密な打ち合わせを行い、問題となりそうな事項については事前に十分な対応策を検討しながら工程を進めていく。工程に関しても十分な期間を設ける。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託及び工事の業者選定は指名競争入札により実施しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○事業を適切に執行することができたため、予算は適正な規模であったと考えている。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途について事業目的達成の観点から必要なものなのか等については額の確定時において検査、確認しており、適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	